令和６年度　学校評価（自己評価）報告書

１　本校の教育目標に基づく経営方針と評価の視点

（１）教育目標

児童一人一人のすぐれた個性を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに、規則や規範を大切にする児童を育成する。

- 思いやりの心をもち、誰にでも優しく温かく接することのできる児童　やさしく
- 自ら学び、かしこく創造力豊かな児童　かしこく
- 進んで体を鍛え、たくましく、がんばり抜く児童　たくましく

（２）経営方針と評価の視点（重点目標）

本年度の経営方針は、学校教育目標を受け、「一人一人が輝き、自己有用感・自尊感情に満ちた笑顔いっぱいの児童を育て、元気・やる気・思いやりのある学校を創造する」である。経営方針を具体化するための重点努力目標を以下のように定め、教育活動に取り組んできた。

①　学習指導の充実

②　教師の授業力・教師力の向上

③　心の教育の充実

④　健康的で安全な環境づくり

⑤　開かれた学校づくり

⑥　ＳＤＧｓ の達成に向けた取組

⑦　多忙化の解消

そこで、学校評価では、重点目標の達成度評価を基本とし、アンケート方式による教員・保護者・児童の評価と日頃の教育活動をもとに分析を行った。

２　学校評価（自己評価）

教育活動を通した取組を評価するための項目を設定し、教員、児童、保護者（いずれも２１項目）を対象にアンケート調査を行った。

設問に対しプラスの評価（「とてもそう思う」＋「そう思う」）を百分率で表した数値を、評価の視点に従って以下に示す。【資料１～３】参照。

３　次年度に向けて

（１）「学習指導の充実」について

本年度は、地域の環境や人材を生かした教育活動をすすめ、タブレットなどを有効に活用しながら、子どもたちにとってより魅力的で分かりやすい授業を目指し取り組んできた。今後も可能な限り、ユニバーサルデザインの視点からの教室環境づくり、授業のユニバーサルデザイン化に努め、「主体的・対話的で深い学び」を実現することのできる授業を目指し、さらに研究と修養に努めたい。

（２）「教師の授業力・教師力の向上」について

校内の人的資源を有効活用し、短時間の研修を継続的に行ったり、時間割を工夫してＯＪＴを取り入れたりして、授業力の向上を図っていきたい。ＯＪＴに関しては、教育活動全般において可能な限り取り入れていきたい。

ＩＣＴ機器の効果的な活用と情報教育については、教職員、児童、保護者の全てにおいて、肯定的な回答が大きく増加した。タブレット端末のより効果的な活用方法を身に付けることや、指導者が機器の活用技術を高めていけるようにしていきたい。

（３）「心の教育の充実」について

次年度も、Hyper Ｑ－Ｕテストを行い、学級経営に生かすとともに、「自己有用感」「自尊感情」を高めるための取組や言葉がけを積極的に行いたい。同時に、児童が相互に認め合う活動を引き続き行い、児童の自尊感情を高めていきたい。

豊かな心を育んでいくためには、道徳・人権教育が最も重要だと考える。授業時間だけでなく、学校生活全てにおいて道徳・人権教育の視点を意識するとともに、道徳の授業では、児童が互いを尊重し、助け合って生活するための基盤づくりを行うとともに、一人一人が、自分自身について深く考え、よりよく生きるためにはどうしたらよいのかを問いかけ続ける力を養っていきたい。

子どもたちの感情豊かな感受性をもつ人間形成を目指し、読書指導にも力を入れていきたい。地域や家庭と連携したり、司書やボランティアなどの人材を活用したりしながら、よい本と多く出会い、人間性を豊かに育てていく取組をすすめていきたい。

児童理解に関しては、学期に１回、年間３回「心の悩みアンケート」を行い、いじめの未然防止に努め、何かあった場合は迅速な対応をとっている。しかし、児童アンケートで「いじめられている」と感じている児童が存在した。「桜小学校いじめ防止基本方針」をもとに、いじめが「教師の目の届かないところで起きているかもしれない」という危機感を常にもち、児童とのふれあいや児童理解を重視し、児童のわずかな変化を感じ取り、いじめ等の未然防止や解決・解消、及び相談活動に取り組んでいきたい。また、教職員間やスクールカウンセラー・ソーシャルワーカーと連携を図り、学年・学級をこえた人間関係、スマートフォン等を介した人間関係や児童や保護者が発する心のサインなどもいち早くつかみ、学校全体でいじめの未然防止に全力をあげて取り組んでいきたい。さらに、保護者とも情報を共有し、相談し合える関係を築いていくよう努めていきたい。

（４）「健康的で安全な環境づくり」について

体育的行事や活動に関して、行事の精選や見直しを行い、授業時間内に一人当たりの運動量を保障する授業実践を行ってきた。今後も、運動量を確保し、授業を通して体を動かすことの心地よさを体感させ、児童の体力を維持・向上させるとともに、休み時間や日々の運動量を高めることへとつなげていきたい。

（５）「安心・安全な学校づくり」について

不審者対応に向けて、教員が考えて動く研修を取り入れ、万が一のときに臨機応変に対応できる教師集団の形成に力を入れてきた。今後もさまざまな想定のもと、研修を積んでいきたい。

災害に関しては、これまで経験したことのないような自然災害が各地で起きている。教師には「地域住民よりはるかに高いレベルの知識と経験が求められる」との見解があることから、「災害が起きたとき、どう行動すればよいかを、よく認識している」での高い数値に甘んじることなく、過去の災害から学んでいく必要がある。今後は、地域と連携した避難所開設の具体的なマニュアルづくりや、津波発生時や河岸堤防決壊時等の個別の災害への対応について、専門家の意見も聞きながら、さまざまなことを想定し具体化を図り、持続可能な取り組みをしていきたい。

（６）「開かれた学校づくり」について

学校ウェブページについては、積極的に更新を行い、保護者に情報提供していきたい。さらに、各学年が柔軟な発想で誰でもウェブページを更新できるよう、職員の研修を行っていきたい。